

令和8年度病害虫発生予察情報 発生予報第5号(7月)

令和8年7月16日

発表：福島県病害虫防除所

【注意が必要な病害虫】

普通作物	■ 水稻：斑点米カメムシ類 -① (令和8年7月13日付け注意報参考)
野菜花き	■ 秋冬ネギ：べと病 -① (令和8年7月8日付け防除情報参考) ■ 夏秋ナス：灰色かび病 -③



病害虫防除所
HPは
←こちらから



病害虫に関する
防除対策の
ページは
←こちらから

※ 上記の表に記載された病害虫は、下記の①～③に該当します。

- 注) ①現状において、注意報レベルの防除を要すると判断された病害虫
 ②「1 主な病害虫の発生予報」のうち、予察調査の結果、発生時期が「やや早い」、発生量が「やや多い」と予測された病害虫の中で特に懸念される病害虫
 ③「1 主な病害虫の発生予報」以外で調査の結果、今後、県全域的に発生が多く問題になると判断した病害虫

1 主な病害虫の発生予報

(1) 普通作物

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
水 稻	いもち病 (穂いもち)	全 域	平年並	平年並	6月上旬～7月上旬の調査では置苗や本田での葉いもち発生は、見られていない(－)。 BLASTAMによる葉いもち感染好適条件を満たす日は6月下旬から7月上旬にかけて周期的に出現している(+)。	上位葉に病斑がみられる場合は、薬剤防除を実施する。病斑がみられなくても穂いもちが発生する可能性があるため、常発地では特に注意する。 水面施用剤は出穂前、散布剤は穂ばらみ末期と穂揃期に施用する。 薬剤耐性菌の発達を防ぐため、同一系統の薬剤の連用はさける。
	紋枯病	全 域	平年並	やや多	昨年の発生はやや多く、天候予報(7月9日発表1か月予報)によると、向こう1か月の気温は高いと予想されている(+)。	水面施用剤は出穂前、散布剤は穂ばらみ期～穂揃期に施用する。 気温が高いと上位葉鞘への伸展が進む。特に前年に発生が多かったほ場では注意する。
	斑点米カメムシ類	全 域	やや早	やや多	すくい取り数は平年並であった(±)。 すべての調査地点(33地点)で発生が確認され、天候予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されている(+)。	防除時期や対策については、令和8年7月10日付け防除対策、令和8年7月13日付け注意報を参照する。

注) 予報の根拠の中で(+)は多発要因、(－)は少発要因、(±)は平年並要因であることを示す。

2 発生が懸念される病害虫

夏秋ナス (露地栽培)	■ 灰色かび病 7月上旬に実施した夏秋ナスの巡回調査において、灰色かび病の発生ほ場割合が平年より高い状況でした。多湿時に発病しやすくなるため、ほ場をよく観察して低密度時から防除を実施しましょう。 また、発病果は適切に処分してください。
----------------	--